

期末試験出題の例

- 例題を10題のうち6題をここで示す（来週に残りの4題を示す予定）。
- 10題の中から3題程度、非常に似た問題を期末試験に出題する。
- 数値は少し変えることがある。
- 答えの方針も示すので、完全な答えになるように、準備すること。
- 持ち込みは一部のみ可（電卓だけ、携帯は不可）

1. マクロの消費・貯蓄

- 可処分所得、貯蓄、消費の3つの関係を式でかけ。なぜ消費者は貯蓄をするかを説明せよ。
- 答えの概略(すべて正確に書くこと)
 - $\text{貯蓄} = \text{可処分所得} - \text{消費}$
 - 短期的には、不況など所得変動へのおそれ
 - やや長期的には、ライフサイクル(若年期と老年期には貯蓄を取り崩す、または、消費資金を借りる。壮年期に貯蓄する)。

2. ケインズ型の消費関数

- ケインズ型の消費関数は、 $C = c_0 + c_1(Y - T)$ と書ける。 C は消費、 Y は所得、 T は租税、小文字はパラメータである。 c_0 、 c_1 がとる値を不等式でしめせ。また、不等式が示す意味をかけ。
- 答えの概略(すべて正確に書くこと)
 - $0 < c_0$ かつ $0 < c_1 < 1$
 - 可処分所得がゼロであっても消費は行う。
 - 家計の消費は、可処分所得が大きくなればなるほど、大きくなる。しかし、消費の増加分は、可処分所得の増加分ほどに大きくない(一部は貯蓄に回す)。

3.設備投資の決定要因

- 設備投資を決定する要因は何か。その中で、金利が上がると、短期的に設備投資は増えるか減るか。
- 答えの概要
 - プラス要因：設備投資を行うことにより収益率（どれだけ、生産能力向上による収益増が見込まれるか）
 - マイナス要因：利子率（金利ともいう）＋減価償却
 - 減価償却は、機械設備を一定時間使い続けることにより、機械設備の価値の減少をいう。
 - 短期的には、金利が上がることで設備投資は減る。

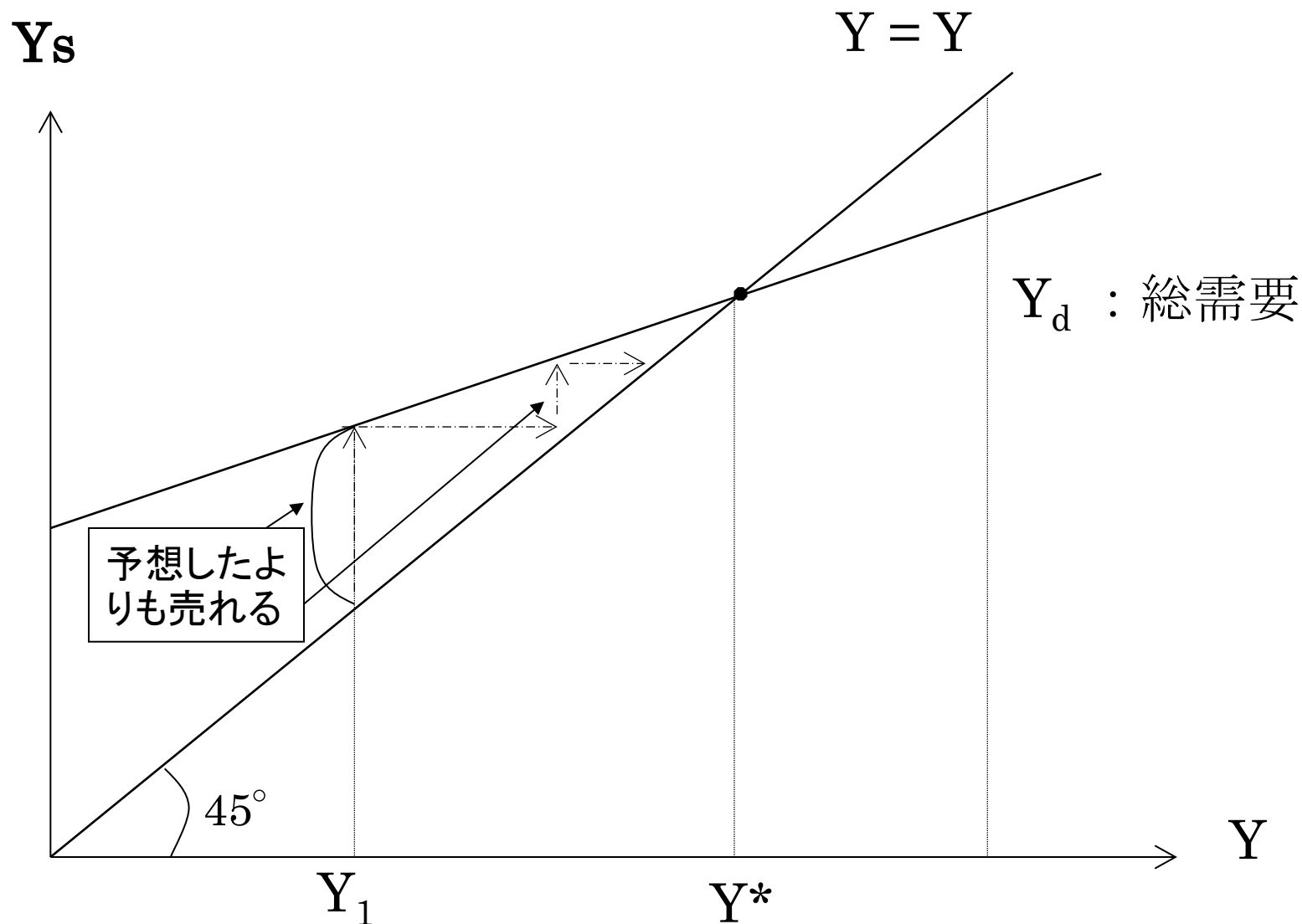
4. マクロモデルの均衡値を求める

- $C = 100 + 0.5*(Y - T)$, $I = 100$, $G = 90$, $T = 80$ のとき、 Y の値を求めよ(これが、均衡するGDPである)。完全雇用産出量が520であったとき、この経済は好況か、不況か。
- 答えの概要
- $Y = c_0 + c_1(Y - T) + I + G$ にそれぞれの値を代入し方程式を解く。 $Y = 500$ となる。式を解く過程も示すこと。
- 経済は不況である。

5. マクロ経済の数量調整

- 45度線図を、縦軸・横軸や2本の直線で示せ（それぞれの名前も書くこと）。その上で、2本の直線の交点よりもYが小さい場合には、交点に近づいていくことを説明せよ。
- 答えの概要
 - 45度線図は、縦軸が最終財生産量、横軸が所得である。これに45度の線（縦軸も横軸もGDP）、総需要の線（傾きがC1）、をかくこと
 - 次のページの図を参照。

数量調整：Y1からY*に調整する



6. 完全雇用産出量よりもGDPが不足した状態＝不況

- 総需要が減退して、完全雇用産出量よりもGDPが小さくなってしまった。この状態をなんというか。また、この状態を図で示せ。
- 答えの概要
 - － 不況である。
 - － 次のページを参照。

不況の場合

